

..... 編集後記 .....

◆年が改まり、平成7年度もいよいよ押し迫ってきました。地質調査所に対する外部評価委員会の報告も近々でてくるでしょうが、今後の地質調査所のあり方をめぐって具体的・建設的な意見が所内外で沸き起こってほしいものです。いずれにしても地質調査所の研究成果の社会への還元について、1月号の所長による巻頭エッセイにもあったように、ますます重要になってくるでしょう。地質ニュースもその一翼を担うべくより一層力を入れていきたいものです。

◆2月号の口絵は鎌田浩毅・星住英夫両氏による北九州九重火山の噴火の貴重な写真です。1月号の表紙とあわせてお楽しみください。また、もう1つの口絵は西田茂氏ほかによる北海道の活断層写真です。いずれも本文とリンクされています。

◆特集は地質調査所の主要成果出版物である地質図幅の紹介です。昨年8月の所内研究発表会で報告されたものうち地質図幅を紹介するものです。とくに統一した形式とはらず各著者の工夫にまかせましたが、どれが一番好ましかったでしょうか。今後、年に一度紹介の仕方を改善しながら報告していこうと思います。さて、本文の最初は口絵と連動した

鎌田浩毅・星住英夫両氏による北九州九重火山の噴火の最新レポートです。活火山地域の調査はなかなか苦勞が多いものですが、人間社会と密接な関係のある地質事象の1つですから読者の皆様の関心も高いと思います。

◆次も同様に口絵と連動して北海道のキウス遺跡でみつけた地震跡の報告です。最近話題のいわゆる地震考古学の分野からの情報です。

◆次は、地球環境問題、とくに気候変動と炭素循環問題を地球内部の要因と結びつけて論じた川幡穂高氏による力作です。熟読してください。

◆地質学をなるべく身近にわかりやすく知らせてほしいという要望も強いものがあります。元所員の岡重文氏による三浦半島の活断層の案内はそうした声に答えようとしたものです。これを参考にぜひお出掛けください。こうした投稿をさらに期待します。

◆最後は昨年地質調査所が中心になって開催に協力した国際会議であるCCOPの年次総会等の報告です。富樫幸雄氏にお願いいたしました。CCOPの紹介は昨年8月号に詳しく掲載されていますので、あわせてお読み下さい。〈編集委員長 加藤碩一〉

〔訂正とお詫び〕

1月号 口絵第4 ページ3. でタヒチとハワイの表示が入れ違っていました。  
(上がハワイ、下がタヒチ)ここに訂正し、お詫びいたします。

地質ニュース編集委員会

委員長：加藤碩一

幹事：佐藤興平・石井武政・今井登・村上文敏・中島隆・大熊茂雄

顧問：林暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋博

事務局：総務部業務課広報係（山崎浩・清水真寿美）

〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所

地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3533

地質ニュースに対するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第498号 1996年2月号 定価 ¥ 770 千実費
1996年2月1日 発行	
編集 発行人	工業技術院地質調査所 株式会社 実業公報社 代表者 林 光生
発行所	株式会社 実業公報社 東京都千代田区九段北1の7の8 Tel. (03)3265-0951 (代表) 〒102 振替口座 00110-6-32466 麹町局私書箱第21号
印刷	小宮山印刷工業株式会社

©1996 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞が関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター(株)本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。品切れの際は店頭で注文してください。